

卒業生紹介

カナダの医療現場で働く

将来の仕事を意識しながら どのような学生生活を 送っていましたか

将来は化学の専門性を活かした仕事に就きたいと意気込んで入学したものの、すぐに自分の方向性を見失ってしまい、4年間悩み迷う日々でした。試験や課題はなんとかこなしていましたが、超氷河期ということもあって就職も決まらず、卒業する頃にわかったのは「私は化学で食べていくことはない」ということでした。悩みながらの学生生活でしたが、化学科は少人数だったおかげが良い友達に恵まれ、今でも仲良くしています。

また、在学時はあまり意識していなかったのですが、理系でも女性教諭が多く、女性が自立し活躍するのが自然な環境だったことに少なからず影響を受けたと思います。カナダはジェンダーギャップの小さい国ですが、それでも「ガラスの天井」はまだありますし、昨今の日本のニュースを見ると、20年前のお茶大の方が今の日本より進んでいたのではと思うことがあります。



現在のお仕事に就くまでの 経緯を教えてください

卒業して数ヶ月後に教材やテストを作る編集プロダクションに就職、その後、理系分野の本の編集で2つの出版社に勤務しました。化学は直接仕事には関係しませんでした。理系という大きな枠で仕事に繋がったと思います。

仕事とは別に、星野道夫（アラスカをテーマにした写真家）の影響を受けて北方先住民の文化に興味を持ち、アラスカを何度か訪れました。旅行では物足りず長期滞在したいと考えるようになったものの、英語やビザ、お金の問題もあり、半ば諦めていました。そんな折に、アラスカに隣接したカナダなら、ワーキングホリデーで1年間働きながら滞在できると知ったのが最初にカナダに行くことになったきっかけです。

現地ではハウスキーパーをして滞在費をまかないながら、先住民の友人からいろいろなことを教わり、滞在が終わりに近づく頃には、もっと彼らのことを知りたい、カナダに滞在したいという

Nishimura Michiko 西村 道子

Registered Nurse (正看護師) 勤務地：カナダ サスカチュワン州

東京都出身 1996年4月 お茶の水女子大学理学部化学科入学
2000年3月 お茶の水女子大学理学部化学科卒業

気持ちが強くなっていました。ただ、1年滞しても英語は全く上達せず、人に頼ってばかりなのは自分の理想とする生き方とは違うと思い、冷静に考えるため一旦帰国することにしました。日本で働きながら1年ほど考え、やはりカナダに戻りたいという結論に達し、永住権取得を真剣に考え始めたのもこの頃です。当時の仕事で尊敬できる医師とお話しさせていただく機会があり医療に興味を持っていたこと、また看護師なら永住権を得やすいだろうという打算もあって、まずは2年で資格を取れるLPN(准看護師)の学校に留学しました。ちなみに、この打算はそうでもなかったことが後に判明します(笑)。

永住権取得後は働きながら大学に戻り、現在はRN(正看護師)として勤務しています。

現在のお仕事内容を 教えてください

最近までフルタイム勤務していたのが内科です。入院の手続き、血圧・体温などの測定、アセスメント、投薬、清拭や食事の介助など、日本の看護とほぼ変わらない仕事内容ではないかと思えます。コミュニケーションは仕事の大きな一部で、患者さんやご家族はもちろん、医師、理学療法士、栄養士、呼吸療法士、言語療法士、ソーシャルワーカーなど、全員と情報が共有されているかの確認も必要です。カナダは移民の多い国で、患者さんにも同僚にも文化背景の違う人が多くいます。また、移民・難民だと英語を話せない方もいるので、言葉だけではなくコミュニケーションも重要です。医療は日進月歩で勉強も欠かせません。カナダの看護師免許は更新が毎年あり、何を勉強したかというのを問われることもあります。患者さんの命、ご家族の人生に関わるので大変なこともあります。その分やりがいもあります。RNになり責任も重くなりました。キャリアの幅を広げるため、この冬から精神科でも働くようになり、今後は外科でも働きたいと考えています。看護は病院だけではなく、トラベルナース、国際的な支援活動など様々な分野があり、私は最終的には地域医療に携わりたいと思っています。

在学生へのアドバイスや メッセージをお願いします

「常識」に囚われないで欲しいと思います。私は最初の渡加が30歳、留学が33歳、RNになったのは41歳。日本ではあまり見ない経歴です。でもカナダにはいろんな人がいます。最初の留学先で最高齢のクラスメイトは入学時54歳でした。2017年まで通っていたこちらの大学には、年齢や肌の色の違いはもちろん、シングルマザーや車椅子の学生、盲導犬をつれている学生もいましたし、実習先のホームレス支援プログラムには大学に通っている元ホームレスの方もいました。看護学科の歴代最高齢の学生は卒業時に96歳だったそうです。人には可能性がたくさんあるのだと、カナダに来て思うようになりました。日本も外国人労働者の受け入れなど国際化が加速的に進み、今までとは違うことが「普通」になっていくかもしれません。

自分の人生の選択・決定をするのは自分自身です。もし本気で目指す事があるなら、周りの声や人と違うということに臆さず、自分の情熱を大切にしてください。また、たくさん本を読んだり、お芝居や映画を観たり、旅をしたり、アルバイトしたり、友人と話したりしてみてください。視野が広がり、大事な礎となると思えます。

人生は思い通りに行かないかもしれませんが、でも、何か自分の思い通りにいかなくても、それは失敗ではなく次へ進む大事な経験です。大学時代、悩んでいる私に、先生が「人は何度でもやり直せる」と言って下さったのを今も思い出します。現在は学生時代には思いもよらなかった仕事をしていますが、自分で考えながら道を切り開き、充実した日々です。

文責：基幹研究院自然科学系教授 森 義仁

わたしのオフタイム

最近は英語の勉強をしなしています。また、ずっと追いつけているテーマである先住民関連のほか、カナダの社会問題（貧困や差別など）への関心が高まり、そういった本やニュースをよく読んでいます。